

第24回経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議（アドバイザリーボード）」を設置しております。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第24回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。なお、第25回会議は、令和4年度仮決算が確定する令和4年12月頃に開催する予定にしております。

記

1. 日 時

令和4年8月2日（火） 12:20～14:35

2. 場 所

山梨県民信用組合 本店

3. 出席者 <五十音順、敬称略>

加藤 隆博	公認会計士
手塚 伸	公益財団法人やまなし産業支援機構理事長
中村 己喜雄	山梨県商工会連合会会長
波木井 昇	山梨県立大学名誉教授
深澤 嘉彦	元金融機関役員

（山梨県民信用組合出席者）

南 邦男	理事長
井垣 繁人	専務理事
望月 久也	常勤理事
荻原 武彦	常勤理事
守屋 稔	常勤監事

4. 南理事長挨拶要旨

本日は、ご多忙のところ、また記録的な猛暑のなか、出席を賜りお礼申し上げます。

今決算は、おかげ様で6期ぶりの黒字決算となった。この3年間、経営改革プランを推し進めた成果が如実に表れたものと理解している。経営の足枷となっていた不良債権の処理については、信用組合業界の強力なバックアップがあったことが最も大きな要因であり、もう一つの要因は、職員のモチベーションアップにあったと考えている。他方、お客様の状況はどうかというと、なかなか厳しい状況にあり、コロナ禍の影響は取りあえず一段落した感はあるが、相変わらず浮き沈みが激しく、飲食店経営の皆様の話では、いい加減にしてほしいとの生の声も

ある。しかし、一方では、宿泊施設を経営されている皆様からは、修学旅行客が戻ってきているなど、以前とは様子が違う状況になっている。ただし、昨今の物価高、素材不足、人手不足などが徐々に深刻化しており、今後、その影響が本格的に顕在化するものと思われる。我々としては、このような状況にあつては、地域の信用組合としてお客様に寄り添い、オーダーメイド型の金融サービスの提供に努めるなど、地域の皆様の支援に全力で取り組んでまいりたいと考えている。委員の皆様には、客観的な立場で忌憚のない助言・提言をお願いしたい。

5. 当組合からの説明

- ・令和3年度決算概況および「経営強化計画」の取組状況
- ・「令和4年度事業計画」について
- ・「令和4年度業務計画」について
- ・前回提言にかかる取組状況

6. 意見交換要旨

(1) 出席者の皆様からいただいたご意見ご提言等

- 新規事業を始めたいと考えている若者を、積極的にバックアップして頂きたい。
- 協同組織型の金融機関として、その存在意義を発揮して頂きたい。
- どういう役割で、どう行動すべきという広義の金融リテラシーを身に付けてほしい。
- 貸出金の残高管理について、再検討が必要と考える。
- コーポレート・アイデンティティを検討して頂きたい。
- 人材育成に向けた投資をすることで、顧客へのサービス向上に取り組んで頂きたい。
- 地域・お客さまへの活性化支援や組織活性化にかかる経営方針の策定に取り組んでほしい。
- 組織文化向上に関する具体的計画の策定が必要と考える。
- 今後、製造業等の国内回帰が徐々に増えてくると考えられることから、情報収集にしっかりと取り組んで頂きたい。

(2) 南理事長からの回答

様々な貴重な意見や提言を賜り、お礼を申し上げます。本日頂いた意見・提言については、速やかに実行し経営に活かしていく。次回の会議では、進捗状況をしっかりと説明したい。本日は、お忙しい中、長時間に亘り参加いただき感謝申し上げます。

以 上